

復雙煎茶  
 祇園梶  
 賣茶翁  
 濫觴上



木琴  
 書

13  
 2946  
 71



特

へ13  
2946  
71

賣茶翁題錢筒詩

煎茶日く起松風

醒覺人間仙路通

要識盧仝真妙旨

傾囊先入箇錢筒

文化二年乙丑正月發兌

山東京傳著



仙鶴堂主人誌  
書肆  
はつとさうらひのりい山東主人せん茶がまろせはせかろまろと門人拜田源半よのこ  
つてて平ふあふられいあふりまのさよまろい茶せまろまろまろまろまろまろまろまろ  
ほのめ結ぶはとすいぬ

今もむくひげいふやうに政公の  
 ちのちかひいふれのおんがらんやう  
 うこしやうの武勇さうまうれ  
 のまあさふうがのちあも又さう  
 さいふらりなるがうい政公か  
 けて九条をさうらあびけその  
 若しやうとてあゆこのつや  
 石ださるなりはれいふおんくに  
 さうんふして京のち北のうを  
 うつあふされども北のうを  
 やこさくかがいしけいこ  
 うれちやこのありさあをさう  
 ー京のちうくさうてん  
 下うびく又いふ山のあさう  
 ーやういふいふくか  
 うんがんのあさひ請ねん  
 くのさあひありまきさうさう  
 のあんとまびらさうてのう  
 ーやいあひさくま  
 さての香茶のまきさうてのう  
 のたひとこのまきさうの  
 ちんさとあさくま  
 ちんさとあさくま  
 ちんさとあさくま  
 かんめくま



いまもむくひげいふやうに政公の  
 ちのちかひいふれのおんがらんやう  
 うこしやうの武勇さうまうれ  
 のまあさふうがのちあも又さう  
 さいふらりなるがうい政公か  
 けて九条をさうらあびけその  
 若しやうとてあゆこのつや  
 石ださるなりはれいふおんくに  
 さうんふして京のち北のうを  
 うつあふされども北のうを  
 やこさくかがいしけいこ  
 うれちやこのありさあをさう  
 ー京のちうくさうてん  
 下うびく又いふ山のあさう  
 ーやういふいふくか  
 うんがんのあさひ請ねん  
 くのさあひありまきさうさう  
 のあんとまびらさうてのう  
 ーやいあひさくま  
 さての香茶のまきさうてのう  
 のたひとこのまきさうの  
 ちんさとあさくま  
 ちんさとあさくま  
 ちんさとあさくま  
 かんめくま



いまもむくひげいふやうに政公の  
 ちのちかひいふれのおんがらんやう  
 うこしやうの武勇さうまうれ  
 のまあさふうがのちあも又さう  
 さいふらりなるがうい政公か  
 けて九条をさうらあびけその  
 若しやうとてあゆこのつや  
 石ださるなりはれいふおんくに  
 さうんふして京のち北のうを  
 うつあふされども北のうを  
 やこさくかがいしけいこ  
 うれちやこのありさあをさう  
 ー京のちうくさうてん  
 下うびく又いふ山のあさう  
 ーやういふいふくか  
 うんがんのあさひ請ねん  
 くのさあひありまきさうさう  
 のあんとまびらさうてのう  
 ーやいあひさくま  
 さての香茶のまきさうてのう  
 のたひとこのまきさうの  
 ちんさとあさくま  
 ちんさとあさくま  
 ちんさとあさくま  
 かんめくま

神皇正統記 卷田内喜と云  
 老長たるものさへも  
 一か中にもいんてん  
 サレくふらうがのる  
 又人まはさるる  
 ありにそのち  
 わらうと云ふ  
 らう人のたんとあ  
 乃たれんる  
 又を公き  
 くらうと云ふ  
 けえたる  
 一か中にもいんてん  
 ありてふらう  
 又人まはさるる  
 いさざり内喜が老年  
 ありてふらう  
 わいして一か中にもいんてん  
 けいん  
 一か中にもいんてん  
 さとていんてん  
 くれといんてん  
 又人まはさるる



卷田内喜  
 安達軍平

神皇正統記 卷田内喜と云  
 老長たるものさへも  
 一か中にもいんてん  
 サレくふらうがのる  
 又人まはさるる  
 ありにそのち  
 わらうと云ふ  
 らう人のたんとあ  
 乃たれんる  
 又を公き  
 くらうと云ふ  
 けえたる  
 一か中にもいんてん  
 ありてふらう  
 わいして一か中にもいんてん  
 けいん  
 一か中にもいんてん  
 さとていんてん  
 くれといんてん  
 又人まはさるる



安達軍平

何れも軍平の内をみまけて  
 めんじりぬらういひてして  
 地のまじりぬらういひてして  
 わくおぼろのめあまはゆき  
 かけのたちんとそのよ内を  
 りみまのび内をみまけて  
 さるぬらういひてして  
 さるぬらういひてして  
 公よりなまかりてして  
 志をこころいひてして  
 ねせしむらういひてして  
 小けとせたり  
 「おれがせめてくおれ  
 てんよとてせたり  
 うらむとせたり  
 ぬらういひてして  
 だれんぬらういひてして  
 「いさぶの内をみまけて  
 とてぬらういひてして  
 ぬらういひてして  
 とてぬらういひてして



軍平

内喜

だれんぬらういひてして  
 うらむとせたり  
 ぬらういひてして

内をみまけて  
 めんじりぬらういひてして  
 地のまじりぬらういひてして  
 わくおぼろのめあまはゆき  
 かけのたちんとそのよ内を  
 りみまのび内をみまけて  
 さるぬらういひてして  
 さるぬらういひてして  
 公よりなまかりてして  
 志をこころいひてして  
 ねせしむらういひてして  
 小けとせたり  
 「おれがせめてくおれ  
 てんよとてせたり  
 うらむとせたり  
 ぬらういひてして  
 だれんぬらういひてして  
 「いさぶの内をみまけて  
 とてぬらういひてして  
 ぬらういひてして  
 とてぬらういひてして



内喜

春田

門差

だれんぬらういひてして  
 うらむとせたり  
 ぬらういひてして







通油街

仙鶴堂梓

京傳作

賣茶翁  
祇園梶  
復讐煎茶  
濫觴中



そのころは六丁や二丁と  
 ましよるるまのりちや  
 のびんといふ  
 八丁のつら  
 林派実名  
 とお徳  
 いふのらに  
 たまと  
 ありく  
 一のといふ  
 こま四海工名  
 とそらちを  
 代のつれかり  
 りんあつちの志のうら  
 つけしとけりしけがのうら  
 奇なおたるーさちやうた  
 らのといふとちなま  
 千金をまびらうた  
 がのいさ乃たさ  
 家妓より一のが  
 。たかきとをれ  
 わざらに世を



天人の井  
 たの  
 とうでんぶ  
 ありま  
 ちや  
 三筋町の  
 一しをま  
 三つらうら  
 のりたるを  
 のささ  
 とち  
 のさ





まこと田の八代集抄  
 のりてふれせむいなる  
 がそのちろしのかま  
 あつふふしとてつら  
 りんをのちのこつた  
 てふのちのつたふの  
 ちのちのちのちの  
 ちのちのちのちの  
 ちのちのちのちの  
 ちのちのちのちの  
 ちのちのちのちの

まこと田の八代集抄  
 のりてふれせむいなる  
 がそのちろしのかま  
 あつふふしとてつら  
 りんをのちのこつた  
 てふのちのつたふの  
 ちのちのちのちの  
 ちのちのちのちの  
 ちのちのちのちの  
 ちのちのちのちの  
 ちのちのちのちの



まこと田の八代集抄  
 のりてふれせむいなる  
 がそのちろしのかま  
 あつふふしとてつら  
 りんをのちのこつた  
 てふのちのつたふの  
 ちのちのちのちの  
 ちのちのちのちの  
 ちのちのちのちの  
 ちのちのちのちの  
 ちのちのちのちの

まこと田の八代集抄  
 のりてふれせむいなる  
 がそのちろしのかま  
 あつふふしとてつら  
 りんをのちのこつた  
 てふのちのつたふの  
 ちのちのちのちの  
 ちのちのちのちの  
 ちのちのちのちの  
 ちのちのちのちの  
 ちのちのちのちの



人の世が...  
 ...  
 ...  
 ...



あらう...  
 ...  
 ...  
 ...



あらう...  
 ...  
 ...

あはれ軍兵二二一の  
字は成るや一十五の金を  
ふりものうらふつりごと  
萩とやいば戸へゆけん  
大井川のまなつゆき  
かよりん年はらこ  
るはいとつけられま  
川下よりまきくゆき  
あまもつゆふあまの食  
そのまきふせうこれ  
天むらののまきれ  
さりその身は川下  
たさけらまてまき  
いのちとひらむせ  
が味利金とのり  
わらうくはなま  
まきりかまらあま  
ひまきふて  
雲中子とまき  
けんむらあまん  
その月を  
かたりぬ



軍平の  
あまのまき

あまのまき  
あまのまき  
あまのまき  
あまのまき  
あまのまき



大印

いぬものなる  
 の事  
 海



あしがまをのゆや  
つうじんをれより  
のらんとぬまのふ  
そらとく百日なり  
すそそのらへのせふ  
乃こよきま  
そのひなきま  
こつこつなりま  
さそくまのひま  
あけらりしにま  
さそくまのひま  
いひまのひま  
いひまのひま  
あそくまのひま  
あそくまのひま

あそくまのひま  
あそくまのひま  
あそくまのひま  
あそくまのひま  
あそくまのひま  
あそくまのひま  
あそくまのひま  
あそくまのひま

「勇助入る大少候  
ふら〜つ〜つ〜  
せおのあんごや乃  
さ〜さ〜  
あ〜あ〜



西戸屋よりついでに  
 の女中がわらわを  
 西戸屋よりついでに  
 の女中がわらわを  
 西戸屋よりついでに  
 の女中がわらわを  
 西戸屋よりついでに  
 の女中がわらわを  
 西戸屋よりついでに  
 の女中がわらわを



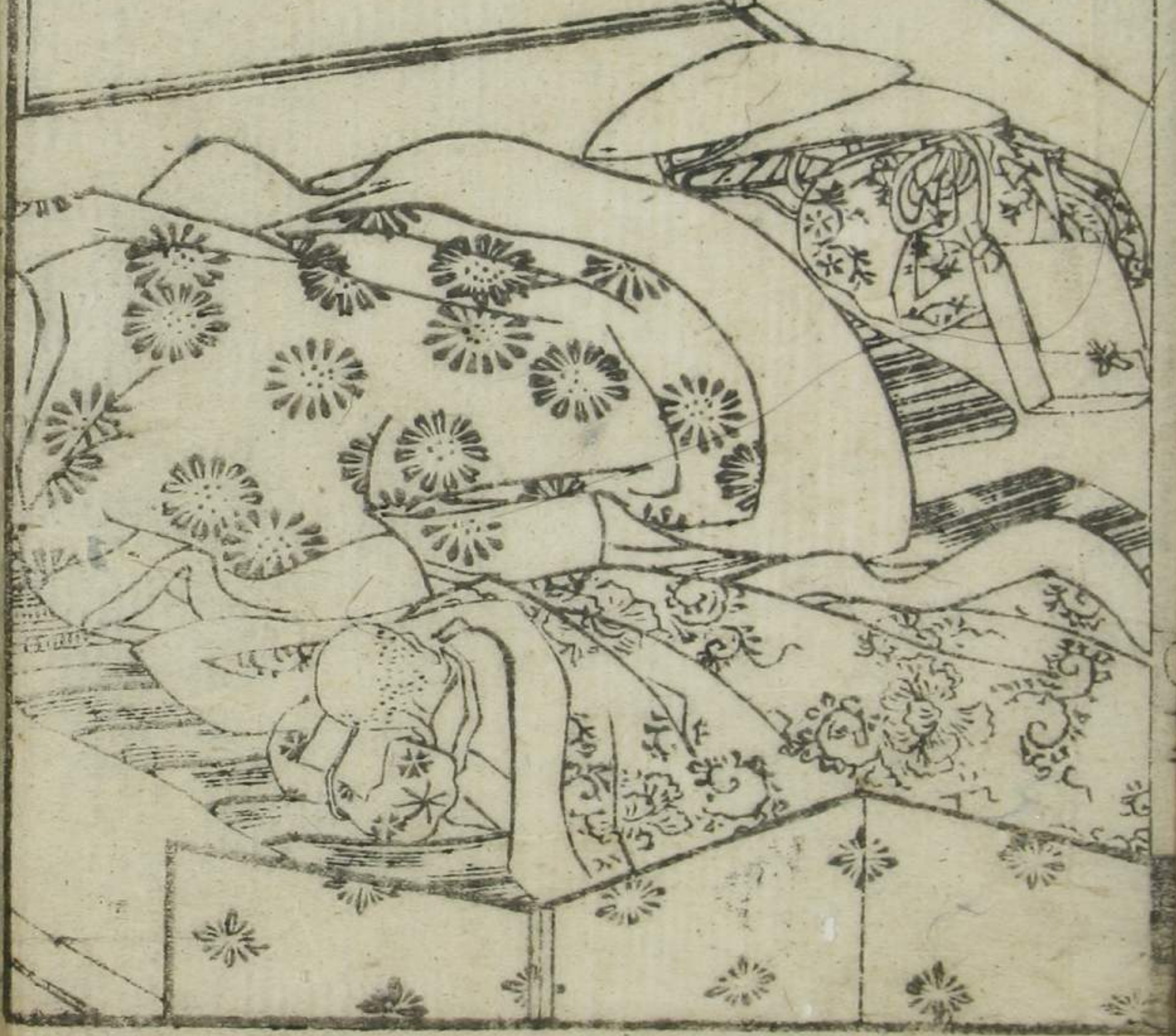
西戸屋よりついでに  
 の女中がわらわを  
 西戸屋よりついでに  
 の女中がわらわを

西戸屋よりついでに  
 の女中がわらわを  
 西戸屋よりついでに  
 の女中がわらわを  
 西戸屋よりついでに  
 の女中がわらわを  
 西戸屋よりついでに  
 の女中がわらわを



西戸屋よりついでに  
 の女中がわらわを  
 西戸屋よりついでに  
 の女中がわらわを

○花柳の助女いかりの  
あやしい千代のさめきり  
ゆりあをいひ日いらふも  
―あきハ玉若くもさし  
りともあきんくもさし  
となくふてふ―なるが  
ふ―さやまらさの  
さめくく女のおく  
まきゆいさしとさ  
か―らあわけて  
白き小をささるる女  
みぢりのくらさ  
まき―ささるあ  
まき―ささるあ  
―らさるあ  
さしきさきさし  
あ―ぬぬらさるあ  
ささるけるんらさるあ  
さかうのとささるあ  
ささるあささるあ  
―ささるあささるあ  
ささるあささるあ  
ささるあささるあ  
ささるあささるあ



ささるあささるあささるあささるあ

○花柳の助女いかりの  
あやしい千代のさめきり  
ゆりあをいひ日いらふも  
―あきハ玉若くもさし  
りともあきんくもさし  
となくふてふ―なるが  
ふ―さやまらさの  
さめくく女のおく  
まきゆいさしとさ  
か―らあわけて  
白き小をささるる女  
みぢりのくらさ  
まき―ささるあ  
まき―ささるあ  
―らさるあ  
さしきさきさし  
あ―ぬぬらさるあ  
ささるけるんらさるあ  
さかうのとささるあ  
ささるあささるあ  
―ささるあささるあ  
ささるあささるあ  
ささるあささるあ  
ささるあささるあ

○花柳の助女いかりの  
あやしい千代のさめきり  
ゆりあをいひ日いらふも  
―あきハ玉若くもさし  
りともあきんくもさし  
となくふてふ―なるが  
ふ―さやまらさの  
さめくく女のおく  
まきゆいさしとさ  
か―らあわけて  
白き小をささるる女  
みぢりのくらさ  
まき―ささるあ  
まき―ささるあ  
―らさるあ  
さしきさきさし  
あ―ぬぬらさるあ  
ささるけるんらさるあ  
さかうのとささるあ  
ささるあささるあ  
―ささるあささるあ  
ささるあささるあ  
ささるあささるあ  
ささるあささるあ



ささるあささるあささるあささるあ





ちうこうたふはのけん堂の茶見の  
きりてせんじをこのもろくわのすのんく  
これ小のい興茶のふくをすてそり  
の二のすこせせんちのせむあらう  
のりせんちやいらのゆりてそり  
はまらしたのめくかこのふより  
るむてあそり  
茶のゆりを味ぬる  
さう茶人よ茶見  
ふぬをのせのそり  
ふりてふりてふりて  
そりてそりてそり  
てせんじのゆりて

賣茶翁像



山東庵京傳作

讀書丸

一色をす  
まらりてす

第一よきとほり  
よくを公賢のきよ  
ふりてふりてふり  
おりてふりてふり

小兒無病丸

ふりてふりてふり  
ふりてふりてふり  
ふりてふりてふり

世百十二支半色五十六支 賣弘所京傳作

のりてふり  
あの上付  
まのりて  
てのりて  
ふりて  
ふりて

Handwritten vertical text in cursive script, likely a title or author's name, running down the right side of the cover.

Handwritten vertical text in cursive script, located in the lower-left quadrant of the cover.

Small handwritten characters on the right edge of the cover.

Small handwritten characters on the right edge of the cover.